

第 学年 算数科学習指導案

日時： 年 月 日 () 第 校時
 場所： 小学校 年 組
 児童： 名
 指導者： 立 小学校 ○○○○

1 単元名（教材名）【 出版 小学校算数○年下】

出版社・教材名（教科書）を記載する。

2 単元の目標

*単元全体の指導を通じて児童に身に付けさせたい力を具体的に記述する。

算数科においては、「小学校学習指導要領解説 算数編」にある当該学年の「学年の目標」と「学年の内容」等を参考にし、必要な記述を踏まえて作成する。

*以下の三つの柱について、目標を示す。

- (1) 「～について理解し、～することができる。」等 【知識及び技能】
 (2) 「～を考えることができる。」等 【思考力、判断力、表現力等】
 (3) 「～よさに気づき、学習に活用しようとしている。」等 【学びに向かう力、人間性等】

3 指導について

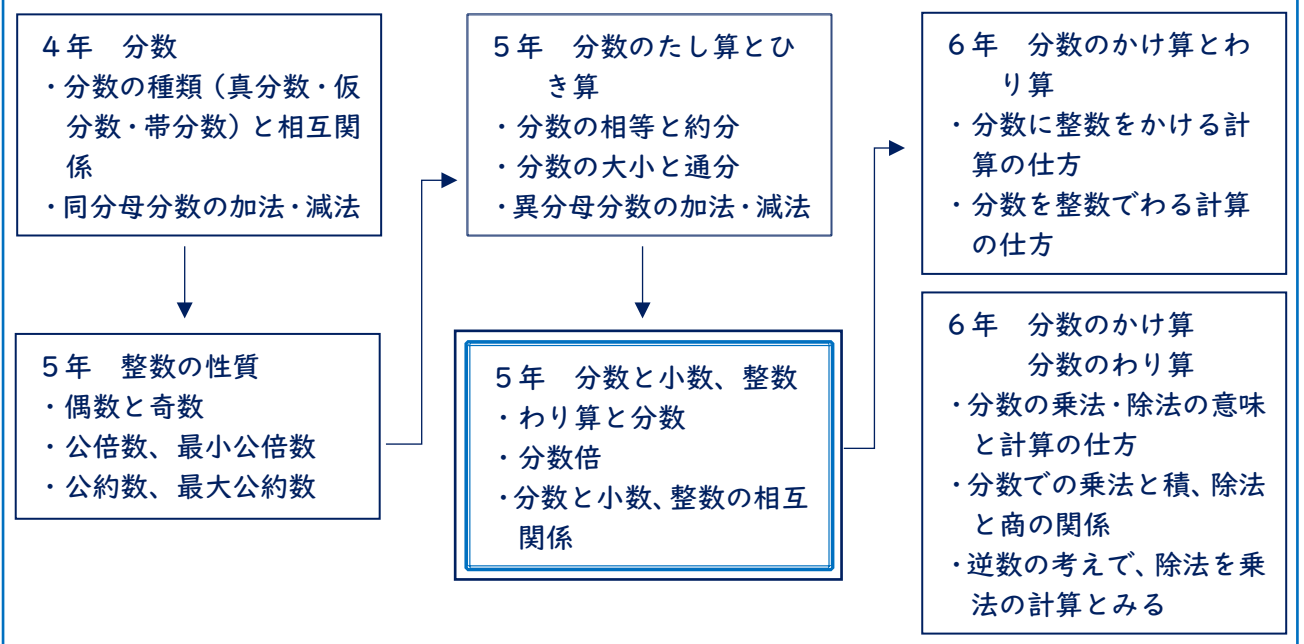
(1)教材について（教材観）

*単元の目標に基づき、単元の内容、単元の系統性、単元を取り上げる意義などを「小学校学習指導要領解説 算数編」などを参考にし記載する。

*下記のように、単元の内容の関連を図示するとよい。

【記載例 単元の内容の関連 5年生 「分数の意味と表し方」】

*全ての学年の内容を記載できない場合は、前後のつながりが分かるように記載するようにする。



(2)児童について（児童観）

*指導に関わる集団としての学習への向かい方や姿勢、到達度等を示す。

*算数科においては、単元に関わる児童の実態について具体的に記す。

事前のレディネステストやアンケートなどのデータを基に書くこともある。

(3)指導について（指導観）

*指導・支援の力点、学習形態、教材教具の工夫など、本時の学習内容をどのように指導していくのか具体的に記す。指導を通し、「〇〇において（場面）、〇〇することにより（具体的な手立て）〇〇ようにする（目指す方向）」のように、記述するとよい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>*「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力「知識及び技能」に該当する指導事項について、育成したい資質・能力「知識・技能」に照らして、「小学校学習指導要領解説 算数編」などにおいて示された内容をもとに表現を揃える。</p> <p><u>その文末は、「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。</u></p>	<p>*「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力「思考力、判断力、表現力等」に該当する指導事項について、育成したい資質・能力「思考力、判断力、表現力等」に照らして、「小学校学習指導要領解説 算数編」などにおいて示された内容をもとに具体化する。</p> <p><u>その文末は、「～している」として、評価規準を作成する。</u></p>	<p>*「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、具体的な書き方で表現を揃えたり、時に追加したりする必要がある。その際、「小学校学習指導要領解説 算数編」などにおいて示された内容をもとに、具体的な学習活動や指導事項を踏まえて具体化する。</p> <p><u>その文末は、「～しようとしている」として、評価規準を作成する。</u></p>

*単元の評価規準の作成においては、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校算数 p.37～を参考に、適切に設定する。

5 学習指導と評価の計画（全〇時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	*主な学習活動を児童の立場で簡潔に書く。	・知・技①（ノート分析・行動観察）		
2	<p>*4.単元の評価規準で示した観点と番号を記載する。 また、評価方法もあわせて書く。 *毎時間の評価の観点は、一つか二つにし、実際に評価できるかどうかをイメージして計画する。</p>		○思・判・表①（ワークシート分析）	○態①（行動観察）
3				

*指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けている。

6 本時の学習 (○/○)

本時○時間目/全体○時間中

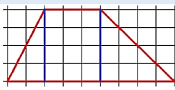
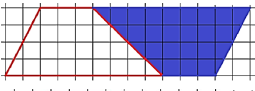

(1)本時の目標

*単元の目標、単元の評価規準、学習指導と評価の計画に即して、本時の目標を設定する。

*【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】【学びに向かう力、人間性等】のうち、どの資質・能力における目標なのかを示す。

*児童の立場で書く。

(2)本時の展開【記載例 5年生 「平面図形の面積」】

	学習活動	主な発問 予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ・評価規準【観点】 (評価の方法)
導入 ○分	*児童の学習活動の流れに沿って児童の立場で書く。	*児童の学習活動を充実させるために必要な教員の指導の手立てについて具体的に書く。	*学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手立てなどについて、留意すべきことを具体的に書く。
	めあて 児童に示す本時の目標を「めあて」などとして記載する。		*作成した評価規準に基づいて書く。また評価の方法も簡潔に書く。
展開 ○分	<p>【例】主な学習活動</p> <p>2. 自力解決する。 ノートに自分なりの考えをまとめる。</p> <p>3. 発表、検討する。 自分の考えを端末で撮影し、全体に共有する。</p>	<p>【例】主な児童の反応</p> <p>・解決① </p> <p>・解決② </p> <p>・解決③ </p> <p>・一つの考えが書けた児童には、それをどのように説明すれば自分の考えが伝わりやすいかを考えるように促す。</p>	<p>【例】評価</p> <p>・思①台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。(ノート分析、行動観察)</p> <p>・態①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、台形の面積を求めようとしている。(ノート分析、行動観察)</p>
まとめ ○分	*一斉、個別、ペア、グループなど学習形態も記述する。多様な学習集団を活用した指導形態や、ICTの活用した学習形態などがあれば記載する。	<p>*児童の実態や予想される児童の反応を想定して個に応じた具体的な手立てを記述しておくとい。</p> <p>*児童の実態に合わせ、支援や配慮が必要な場合は、配慮事項等を記載する。</p>	<p>【例】指導上の留意事項</p> <p>○発表・検討場面では、素朴な解決から取り上げるようにし、前の解決方法で用いられた着想と「似ている点」を発表させることで、「既習の求積可能な図形に直した」という着想を明示化するようにする。</p>

(参考) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校算数』 p.72

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_sansu.pdf

